

限られた時間・限られた器材で行う

# 訪問診療における 義歯修理の



監修—水口俊介 戸原 玄

著—竹前健彦

戸原 玄 野本亜希子

Denture

Repair

and

Rebase

in

Dental

Home Care

医歯薬出版株式会社



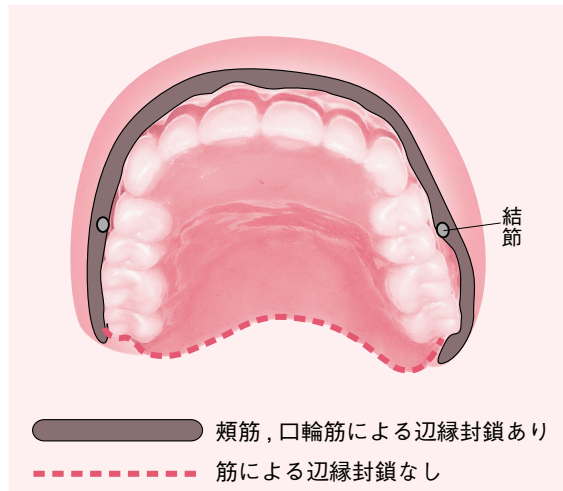


図 1-3 上顎義歯と辺縁封鎖

床縁の点線部分は辺縁封鎖の得られにくい部位であり、義歯床による積極的な封鎖が必要である。

ベースの封鎖は、リベース材が上顎結節の硬い粘膜部に接するため訪問診療では歯科医師の帰院後に痛みが出ることはないよう、この部分のみ少量のフィットチェッカーで義歯床の適合を確認しておくほうが安心である。時間があまり取れないときは、ポストダム部のリベース材補充だけで、かなり吸着が得られる。そして、ポストダム部だけの封鎖ならば、フィットチェッカーでの確認はほとんど必要ない。

第一の操作（ポストダム部）、第二の操作（バッカルスペース）のリベースでは間に合わない程の骨吸収や変形がみられる場合は全顎的にリベースを行うが、ほとんどの場合、訪問診療では第一の操作だけで短時間で好結果を得る。

## 2 辺縁封鎖の状態

図 1-3 の点線部以外は、口唇や頬粘膜で封鎖されている。それにもかかわらず、最近義歯が落ちやすい、外れやすいと患者が訴えるのは、点線部、すなわちポストダム部の封鎖が甘くなっているからである。この部分を封鎖（第一の操作）しても吸着力がまだ弱いときは、バッカルスペース（p.10 参照）の広さを確かめ、必要に応じ適量のリベース材でバッカルスペースを満たす補修（第二の操作）を追加する。

# 5 上顎全部床義歯のリベース—診療時間を短くし、苦痛を与えず効果を上げる必要最小限のリベース

## 1 ポストダム部の封鎖とバッカルスペースの封鎖

上顎のリベースはポストダム部封鎖がポイントであり、なるべく全顎的には行わ



図 1-4 上顎はポストダム部封鎖  
封鎖のため、軟らかいリベース材をこの部  
位に盛りあげる。



図 1-5 バッカルスペースの封鎖  
後方部分もリベース材が入り込みバッカル  
スペースが封鎖されている。

ない(図 1-4)。義歯のポストダム部を軽く削って新面を出し、この部分にのみ接着剤を塗布して、口蓋部分の粘膜面にワセリンを塗ってから、モチ状のリベース材を盛り上げ口腔内に装着してしっかり噛んでもらうと、少し圧接されピッタリと封鎖される。

また、上顎結節後縁のバッカルスペースの一部分も少量のリベース材が少し厚めに補足している(図 1-5)。軟らかいうちにハサミやカッターナイフでカットし、ラバーボウル等の湯で硬化させて軽く研磨し終了する。

図 1-4 と図 1-5 の作業時間は 10 分以内で済む。しかし、もしも全顎的にリベース材を広げると、口腔粘膜は歯槽骨上で部位により厚さが違うため被圧縮度に差が出る。そのためレジン硬化後にフィットチェッカーで必ず調整する必要があり、リベースと調整で作業時間は 30 分以上を費やすことになりかねない。しかも硬い粘膜部の当たりが術後に出る心配もあるので、訪問下では全顎的リベースはなるべく避ける。

**POINT!▶** 上顎全部床義歯が落ちる(外れる)最大の原因は、(a) ポストダム部の封鎖が甘くなること、(b) 義歯前歯部が挺出した下顎対合歯に当たって突き上げられること、(c) 臼歯部の咬合の不調和、の三つである。(a) は図 1-4, 5 の操作で解消できる。(b) は対合歯を削れば簡単に解決する。(b) の対応は、Chapter 4 に記載する。(c) は Chapter 3 に記載する。

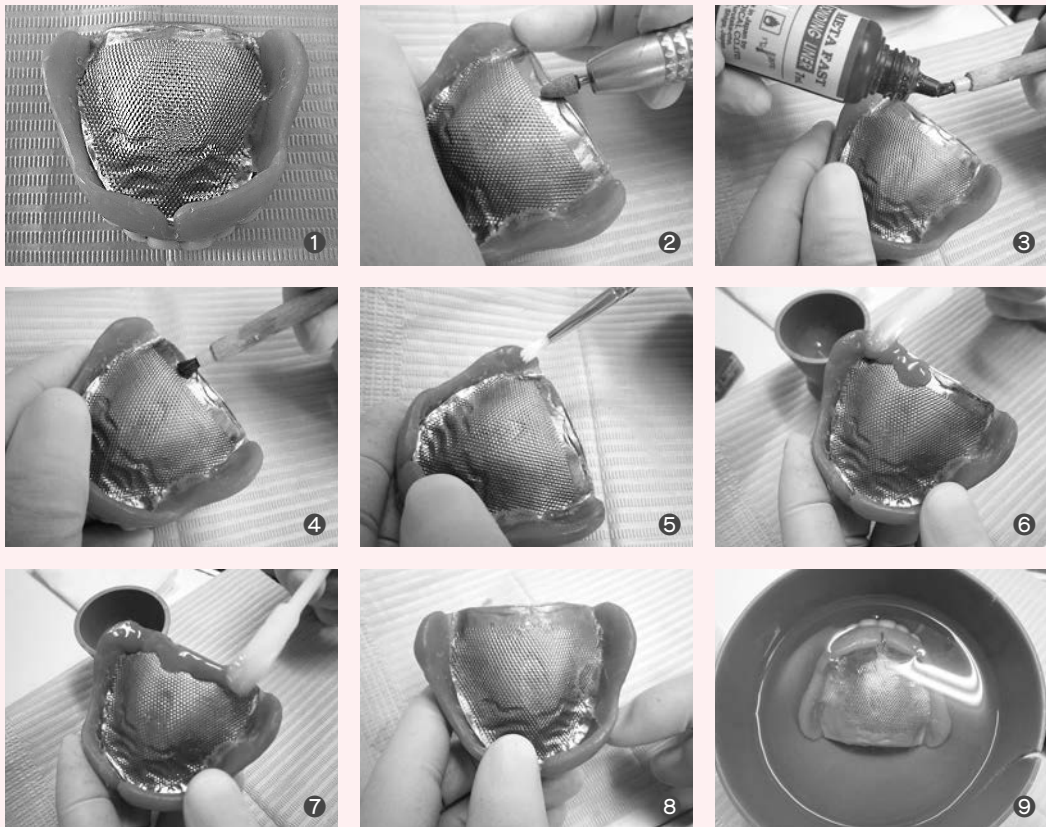
上顎全部床義歯の吸着維持は、ほとんどの場合、ポストダム部の封鎖(第一の操作)で十分である。図 1-4 の状態の義歯を口腔内に戻す前に、必ず口蓋部粘膜にワセリンを塗ることが大事である。塗らないとレジンが粘膜面に付着し、きれいに仕上がらない。この方法だと必要最小限の対応で上顎義歯吸着の最大効果を得られる。義歯床後縁の軟らかい粘膜部分を軽く圧迫しているだけなので、術後褥瘡性潰瘍になることもないのでフィットチェッカーで検査する必要もあまりなく、短時間で十分に吸着が得られる。

いは床縁が長すぎたり、厚すぎていないかを確認しておく。バックルスペースは、下顎運動時の筋突起の動きによって影響を受けて大きさが変化するため、下顎運動のチェックが必要である。

**POINT!**▶ 部分的な適合検査は必要な部位のみを簡単に行い、決して全体的にフィットチェッカーを使用しない。作業時間短縮の工夫が必要である。

## 5 金属床のリベース (リライン) は無理だとあきらめていないか？

金属床の全部床義歯も、レジン床と同様に上顎はポストダム部の封鎖のみで簡単に吸着が得られる (図 1-8)。



①多くの金属床義歯は時間の経過で外れやすくなり、重さで落ちてしまうことがある。しかしまったく悩む必要はない。レジン床の補修と同様にポストダムの封鎖のみで、ほとんど落ちなくなる。②カーボランダムポイントなどで金属の新鮮面を出す。③、④メタルプライマーを塗布する。⑤乾いたらさらに、レジンプライマーを塗布する。⑥、⑦レジン床と同様にリベース材でポストダム部のみリベースする。⑧口腔粘膜部にレジンが張りつかないように、ワセリンを塗布してから口腔内で圧接した。⑨ラバーボウルにお湯を入れて硬化させる。

図 1-8 金属床のリベース (リライン)



⑩硬化後，少量出たバリを取る。⑪研磨。サンドペーパーにワセリンを塗布して研磨仕上げする。研磨は現場で便利な方法を，担当医が各自考えればよい。⑫もちろん咬合状態は必ず確認する。タッピングと歯ぎしりをしてもらい，ほぼ上顎舌側咬頭（機能咬頭）以外は当たっていないことを確認する（p.49 参照）。咬合の不安定は，せっかく得た辺縁封鎖を失う。

図 1-8（つづき） 金属床のリベース（リライン）

## 6 下顎全部床義歯のリベース—辺縁封鎖が甘いのはどこか

### ① 下顎義歯と辺縁封鎖

図 1-9 に示すように，下顎義歯の頬側は頬筋と口輪筋で辺縁封鎖されている。舌側は臼歯部では舌の筋圧によって辺縁封鎖されているが，前歯部舌側の辺縁封鎖は，舌小帯とその両サイドが舌の筋圧を得られないので，義歯床自体の工夫により封鎖を得なければならない。特に訪問下では，下顎義歯の前歯部舌側の辺縁封鎖が甘く

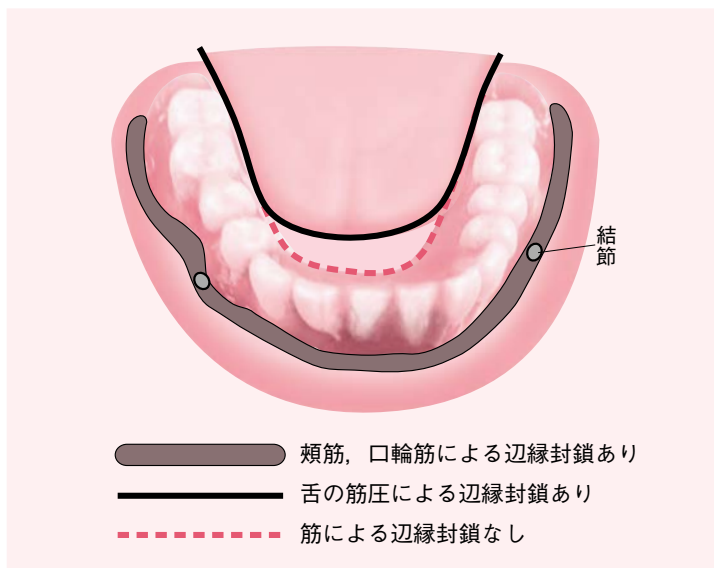


図 1-9 下顎義歯と辺縁封鎖

床縁の赤い点線部分は辺縁封鎖の得られにくい部位であり，義歯床による積極的な封鎖が必要である。

- ④ クラスプ自体の機械的変形や緩み
- ⑤ 手指が不自由であるため、支台歯にクラスプを適合させられず浮き上がったままの噛み込み

クラスプの変形、破折には上記原因が考えられ、クラスプの新製を余儀なくされる。しかし訪問診療では、患者が現在使っている義歯を預かるわけにはいかない。そのため、以下に述べる修理時のチェアタイムを短くする工夫が必要である。

## ② 義歯を預からずに新製したクラスプを短時間でつける工夫

(図 3-1. 以下①～⑧は図 3-1 中の番号に対応する。以降、同じ)

- ① ④ に根面板があるが、③ にかかるクラスプが折れている。③ にレスト形成が無理な場合は、新しいクラスプにあえてレストを付与しなくても、この場合は④ の根面板が咬合の支持力をカバーしてくれる。しかし④ に動揺があり支持力が弱い場合には、前述 (Chapter 2 参照) の②3 部に切縁レストを付与して支持力を強化する。
- ② 義歯床にクラスプ脚部が入るスペースを作る。これにより新クラスプの接着時間を大幅に省略できる。
- ③ ④ 舌側歯頸部から近心隣接面にかけてクラスプ位置を想定し、レジン床部分と人工歯を削る。
- ④ 新たに作るクラスプの脚部を入れて、即重レジンを添加し接着する場所を確認する (赤い点線部)。
- ⑤、⑥ 口腔内に義歯を戻し、クラスプの入るスペースを確認。
- ⑦ 義歯を入れた状態で、支台歯③ のクラスプが即重レジんで接着される場所をしっかりアルギン印象する。印象物から義歯を取り外して患者に返す前に、④ の赤い点線マーク部はストップング仮封し、舌感が気にならないようにして患者に返す。
- ⑧ この印象模型でできた新しいクラスプは、クラスプに合わせ改めて義歯床を現場で削る時間を省略することができ、脚部にメタルプライマーを塗布することでレ



図 3-1 クラスプを短時間で修理する工夫

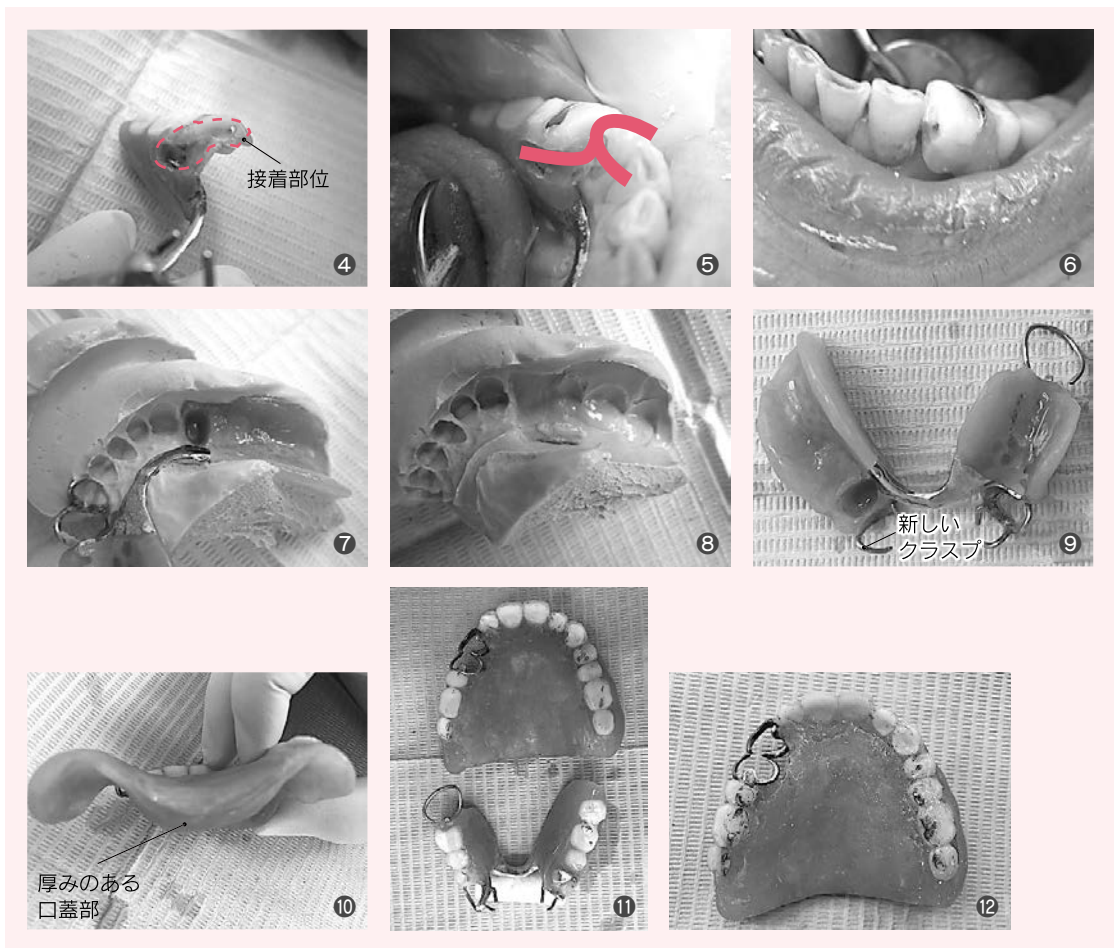


図 3-1 (つづき) クラスプを短時間で修理する工夫

- ジンとの接着力を強め、短時間で簡単に即重レジンで口腔内につけることができる。
- ⑨新しいクラスプを③に即重レジンでつけて④根面板部分はレジンで修正した。
  - ⑩対合の上顎義歯床は口蓋部分をかなり厚くしている。この患者は舌の筋力が低下したため、このような嚥下補助効果を高めさせる工夫をした。
  - ⑪患者は支台歯の多い右側でばかり咀嚼するので、右側人工歯が多く減り、左右の咬合バランスが悪い。これもクラスプ破折の一因と考えられる。
  - ⑫そのため、必ず定期的に機能咬頭の咬合回復調整をしておく必要がある。

**POINT!▶** 訪問診療では定期的に左右臼歯部の咬合バランスを整えて、床やクラスプの破折を未然に予防する。

**POINT!▶** 「あらかじめクラスプの脚の入る場所をレジン床内に確保してから印象採得する」ことが時間短縮につながる。